

学校だより



学校だより 3月号
令和5年3月1日
発行者 外日角小学校
TEL 283-0040

やる気を育てる言葉のかけ方

稲垣 一郎

寒さも和らぎ、あたたかい季節となってきました。保護者の皆様におかれましては、本校の3学期の教育活動に多大なるご支援を賜りましたことに厚く感謝を申し上げます。

さて、時に人は愚痴っぽいイメージで話すときがあります。「おいしいけど味が薄い。」「楽しい場所だけれど人が多すぎる。」「あの人、仕事はできるけどきつい。」のように、マイナスの言葉を最後に言うと、聞いている方はよい気持ちはせず、口には出さなくてもその人へのマイナスのイメージが出来上がってしまいます。

仕事をしていても、上司が部下から報告書を受け取った時、「ありがとう。短い時間の中でよくやってくれたね。でも、だいぶ直さないといけないけれど…」と言ったとします。「ご苦労さま。」とねぎらいのつもりで声をかけても、言われた方としては、「がんばって取り組んだのだけれど、うまくできていなかったのかなあ。」という気持ちになり、やる気と自信を失うかもしれません。そこで、マイナス言葉を先に、プラスの言葉を後に順番を変えてみたらどう感じるでしょう。「直しは必要だけど、よく頑張ってくれたね。ありがとう。」これなら、受け止める側にも感謝の気持ちが十分に伝わり、「自分で直してみます。」と前向きになり、やる気と向上心を喚起するかも知れません。

飛行機事故で亡くなられた脚本家・作家の向田邦子さんは、子どもの頃に聞いた菊池寛さんの講演で、「他人にもものを言う時は、嫌なことを先に言って、よいことやほめることを後に言いなさい。」と教えられたそうです。子どもに、「野菜を食べないと健康になれないよ」と否定的に言うよりも、「野菜を食べると健康になれるよ」と肯定的に言う方が、食べる意欲を高められるという報告もあります。また、最近のトイレでも「汚さないでください」という言葉よりも「きれいに使ってくれてありがとう」と、プラスの表現を使っているところがたくさんあります。同じ内容のことを伝えるのでも、言葉の順序や言い方によって受け取り方が違ってくるのですね。2月の保健だよりでも大きく取り上げた『リフレーミング』の考え方で生活していくと、どんどん笑顔が広がり、幸せに感じるが多くなっていくのではないのでしょうか。

この一年間、子どもたちは、生活や学習で頑張ったことがたくさんあります。課題もたくさんあるかもしれませんが、来年度に向けて、「よし、がんばるぞ」と前向きになれる言葉かけをしていきたいと思えます。

コロナ禍の中での一年間ではありましたが、保護者の皆様をはじめ地域の皆様には、ご理解ご協力をいただき本当にありがとうございました。